

[成果情報名]ブドウ「ブラックキング®」の短梢剪定栽培における特性

[要約]露地において、ブドウ「ブラックキング」は短梢剪定栽培が可能である。ただし収量を確保するため、2芽剪定を併用する必要がある。長梢剪定栽培と比べると房形がやや乱れるが、十分な果実品質が確保される。

[担当]山梨県果樹試験場・育種部・生食ブドウ育種科・内藤一孝

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

ブドウ「ブラックキング」(品種登録名：甲斐ベリー3)については、平成27年度成果情報において長梢剪定栽培における栽培特性を報告した。本研究では、近年県内で増加傾向にある短梢剪定栽培での特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「ブラックキング」で慣行の1芽剪定を行うと、基底芽の発芽率が低く新梢数が少ない。2芽剪定を行うと、「ピオーネ」(1芽剪定)以上の新梢数を確保できる(表1、図1)。
2. 1芽剪定では花穂が不足する場合もあるが、2芽剪定では「ピオーネ」と同等の花穂数を確保できる(表2、図1)。
3. 短梢剪定栽培では、軸横幅が広がり果房上部がくるみにくく房形がやや乱れる。しかし着色や糖度は長梢剪定栽培と差はなく、十分な果実品質を確保できる(表3、図2)。
4. 1芽剪定と2芽剪定の果実品質は同等である。芽座の長大化を考慮すると剪定方法は1芽剪定が望ましいが、収量を確保するため2芽剪定を併用する必要がある(表1、表3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は果樹試験場(山梨市江曾原：標高440m、埴土、灌水設備あり)におけるH型短梢剪定栽培(露地栽培)の特性である。
2. 短梢剪定栽培において品種本来の果粒重(20g以上)に達するのは、長梢剪定栽培より1~2年遅くなる。
3. 「ブラックキング」の短梢剪定栽培では、10aあたりの新梢数は5,000~6,000本(7尺5寸間あたり25~30本)、最終着房数は2,800房程度とする。
4. 「巨峰」や「ピオーネ」と比べて新梢が折れやすい傾向があるため、誘引の際には捻枝などを活用する。また主枝延長枝の切り詰めは、発芽率を考慮して15芽を超えないように行い、発芽促進剤の使用や芽傷処理を行う。

[期待される効果]

「ブラックキング」の短梢剪定栽培における特性が明らかになり、新規作付け時の整枝剪定法選択の参考資料となる。

[具体的データ]

表1 短梢剪定樹における発芽率(2019～2020)

品種	剪定方法	発芽率(%)		
		基底芽	第1芽	第2芽
ブラックキング	1芽	45	100	-
	2芽	1	98	100
ピオーネ	1芽	90	98	-

ブラックキング(5BB台、8～9年生)、ピオーネ(101-14台、24～25年生)
 参考:長梢剪定栽培の発芽率(ブラックキング:75.5%、ピオーネ:69.9%)

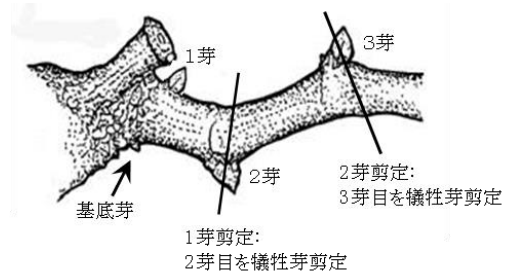


図1 芽の位置と剪定方法

表2 短梢剪定樹における花穂着生数と着生する花穂数の比率(2019～2020)

品種	剪定方法	1新梢あたりの花穂着生数			1新梢あたりに着生する花穂数の比率(%)									
		基底芽	第1芽	第2芽	基底芽			第1芽			第2芽			
					花穂ナシ	1花穂	2花穂	花穂ナシ	1花穂	2花穂	花穂ナシ	1花穂	2花穂	
ブラックキング	1芽	0.6	1.3	-	81	13	6	14	44	43	-	-	-	-
	2芽	0.0	1.3	1.8	100	0	0	25	50	25	3	16	81	
ピオーネ	1芽	1.4	1.8	-	23	25	52	4	15	81	-	-	-	

ブラックキング(5BB台、8～9年生)、ピオーネ(101-14台、24～25年生)
 参考:長梢剪定栽培の1新梢あたりの花穂着生数(ブラックキング:1.7、ピオーネ:1.9)

表3 「ブラックキング」の長梢剪定樹・短梢剪定樹における果実品質(2018～2020)

剪定方法	果房重(g)	着粒数	果粒重(g)	着色 ^z (C.C.)	糖度(Brix)	酸含量(g/100ml)	軸横幅 ^y (cm)	房形 ^x	収量(t/10a)
1芽	631	26.7	24.5	11.4	18.0	0.49	5.3	1.9	1.2
2芽	650	28.5	23.7	11.5	17.6	0.51	5.0	2.0	1.8
-	575	27.3	21.2	11.5	17.6	0.50	4.7	2.3	1.5

短梢(5BB台、7～9年生、H型)、長梢(101-14台、8～10年生)、GA処理:GA25(F5)+GA25
 z)着色:0(緑)～12(紫黒) y)軸横幅:果粒を除去した両側の支梗の最大幅
 x)房形(山梨県青果物標準出荷規格):1(良) 2(優) 3(秀)



図2 「ブラックキング」の果房
 (左図:短梢剪定樹、右図:長梢剪定樹)

[その他]

研究課題名:着色系オリジナル品種の育成

予算区分:県単(重点化)

研究期間:2018～2020年度

研究担当者:内藤一孝、手塚誉裕、小林和司